

●広島大学附属東雲中学校

# 2色デジタル印刷機は教育ツール。 生徒が自ら使うことで「読解力」が育つ。

広島大学附属東雲中学校では、3年前に2色デジタル印刷機を導入して以来、各教科の教材や保護者向けのお知らせなどに使用すると同時に、生徒会活動に積極的に活用。2色デジタル印刷機を教育ツールと位置づけ、生徒自身に2色印刷を体験させる中で「読解力」の育成を図っています。



林 武広校長

## 生徒会活動で活用する

生徒数253名の広島大学附属東雲中学校（林 武広校長）に、2色デジタル印刷機が導入されたのは3年前です。さつそく同校では島本靖副校長を代表者として8名からなる研究部を設け、実践研究に着手しました。

作例で紹介するように、学習指導や保護者向け配布プリントなどにも、2色プリントを使用していますが、本校での特色は、生徒会活動における活用を積極的に進めていることです。

「学習面でどのように応用できるか、各教科での特性に合わせて検討すると同時に、林校長の提案で、併せて生徒に開放し、使わせてみようという方向になったのです」（島本副校長）

広島大学大学院教育学研究科教授も務める林校長は、その意図を次のように語ります。

「2色デジタル印刷機を教員用の事務用品にしたいくない、教育ツールにしたいと考えました。とすれば、学習指導に使うことはもちろんですが、生徒自身がこれを使うのがいちばんいい。なぜなら、2色プリントを生徒がつくることによって、最も直截的に教育効果が期待できるからです」

林校長がその効果として指摘したのは、2色デジタル印刷機を使う生徒は、まず「読む側から、つくる側になる」、そして「2色でいかに効果的に伝えるか、考える」という点です。

## 言葉を選ぶ力、 伝える力が身につく

生徒会役員選挙や文化祭、新しい図書の紹介など生徒会の活動は多岐に亘ります。活動の内容は生徒が制作するプリントで伝達されますが、これに2色デジタル印刷機が活用されているのです。

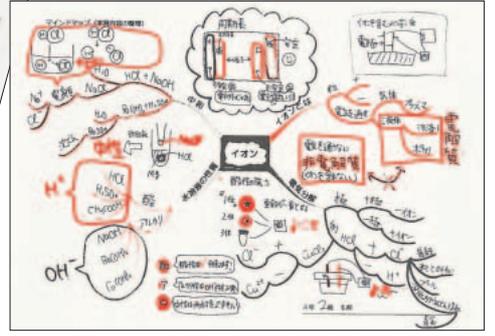
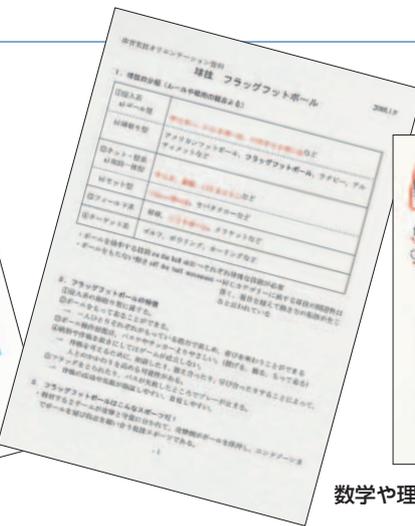
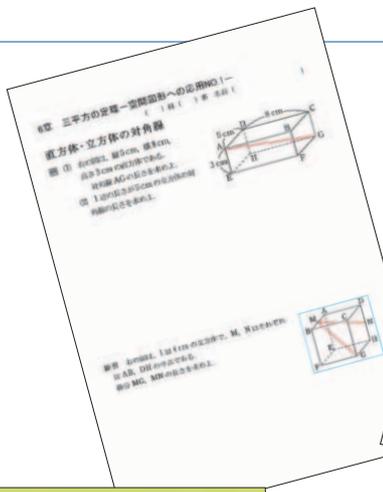
「情報を伝えることは簡単ではありません。つくる側になるとは、

この簡単ではない伝える立場になることです。しかし2色デジタル印刷機を使えば、内容をよく伝えるために『ここが重要だ』というキーワードを自分で選び、赤色にする形で強調できます。

重要事項を選ぶのは生徒自身であり、選び出すこと自体が勉強になります。文章中の伝えたい部分を探す作業によって、読解力も高まります。つくる側になって初めて読解力がついたという子どももいると思います」（林校長）



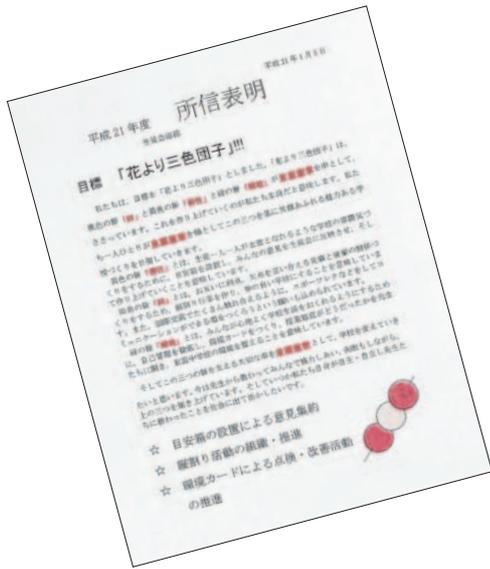
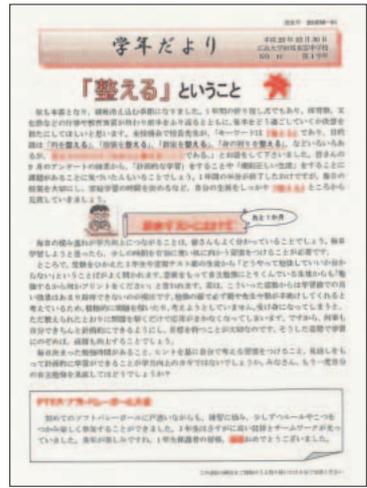
島本 靖副校長



数学や理科の教材、通信などでも使われている



生徒会が幅広い分野で2色プリントを活用している



生徒会総務や各種委員会では、生徒同士がどの言葉を赤色にするか、ディスプレイジョンすることです。

「重要事項のみに色をつけることができる。これが2色プリントのよさですね。フルカラーだと、かえって、これができません」(林校長)

**教員のスキルアップにも**

各教科での実践研究は教科ごと

に先生方が有効な活用法を話し合

って決めていると島本副校長は言

います。

たとえば強調したい事柄や生徒

が暗記すべき重要語句を赤色で示



広島大学附属東雲中学校

し、生徒が赤ゼロハンシートで隠して反復学習しやすくする。問題と解答を色分けした1枚の2色プリントで練習することで、学習の仕方を習得する、などの実践をしています。

今後は、さらに幅広く2色プリントを活用したい、と林校長は語ります。

「学習指導案も2色プリントにしたら、新たな気づきがあるかもしれません。研究会で使ってもいいでしょうね。教育実習生に使わせてもおもしろいと考えています。いろいろと考えて使うと、2色デジタル印刷機は、いい教育ツールになると思います」(林校長)